

番号	区分 (企画・提案)	事業名	提案委員名	担当 (担当部会)	事業概要	対応 ex.【実施する】【他の事業で実施する】【実施しない】
1	企画	災害時の避難所はどんな状況	川村 朋生	地域総務課 第1部会	<p>【目的】 避難所運営と行政との連携を理解する。</p> <p>【内容】 地域の方を対象に講師(李仁鉄氏)を招いて講演会を開催し、避難所運営の中で起る問題等をグループワークで検討する。</p>	<p>【他の事業で実施する】</p> <p>区づくり事業「地域と取り組む防災事業」において、平成29年度より3ヶ年をかけて、南区内の各地域全体で取り組む自主防災訓練へ防災専門の講師(中越防災安全推進機構)を派遣し、「避難所運営と地域の関わりについて」の講演会を実施、令和元年度で南区内を一巡します。また、次年度以降は、自主防災活動助成金を活用し、各地域の自主防災訓練へ直接防災専門講師などを呼べるよう地域を支援するとともに、講師の紹介などを盛り込んだ「(仮称)防災虎の巻」を地域毎に作成する予定です。 避難所運営については、今後避難所運営体制連絡会などを通して各避難所で取り組めるよう、防災課、健康福祉課と協議し進めていきたいと思ひます。</p>
2	企画	自主防災「災害が発生したら」 地域別張り紙の作成	本永 裕子	地域総務課 第1部会	<p>【目的】 災害が起きた際の避難場所・避難対応・心構えを家庭で確認できるようにする。</p> <p>【内容】 各地域ごとの家庭ゴミの収集カレンダーのように、災害が発生した場合の対処の仕方、地域別の避難所の案内、避難所での注意事項等を記載した張り紙を作成し、各家庭でいつでも閲覧できるようにする。</p>	<p>【既に実施済みのため実施しない】</p> <p>平成27年度にも自治協提案事業で「わが家の避難場所」のマグネットを作成し全戸配布しています。平成30年2～3月に洪水ハザードマップを作成し全戸配布、令和元年度には浸水ハザードマップを浸水想定地域へ全戸配布しています。これらのハザードマップ等には災害時の情報入手手段や避難所等が掲載されています。そのため、区として新たに張り紙等の作成は行いません。 今後行政、各地域、防災士等が連携し、災害が発生した場合の対処方法を地域の訓練や防災学習等で地域住民へ伝えていくとともに、区だより等で周知を図っていきたく思ひます。</p>
3	企画	子育て支援メール事業 南区版	早見 真由美	健康福祉課 第2部会	<p>【目的】 妊娠中・子育て中の不安を解消し、親子の成長を支え見守るフィンランドのネウボラの実現を目指す。</p> <p>【内容】 妊娠期・子育て期の親や家族を支援するサービスを、担当者の顔が見える仕組みを持ったメール、LINEなどで行う。 全員共通で受け取れるメールのほかに、特別な時のみ担当の方と交流できるようにして、親子の育ちに寄り添う。</p>	<p>【他の事業で実施済み】</p> <p>子育てに関する悩みや疑問の解消を図る情報発信は、区での実施より全市的な展開が望ましいと考えます。 今年度西区で始まったLINEを使った取り組みについて、今後行われるアンケートなどを参考としながら、費用面も含めどのような形態が効果的か引き続き検討する必要がありますと考えています。 メールでの相談は、随時、健康福祉課でも受け付けています。地区担当保健師との相談しやすい関係づくりのためにメール相談から訪問に繋げ、支援しています。 また、健康福祉課内に「妊娠・子育てほっとステーション」を設置しており、保健師の資格を持った「マタニティナビゲーター」が妊娠期から子育てに関する相談を受け、支援しています。</p>
4	企画	郷土の偉人曾我・平澤両人の出身大学との 交流及び京都市民へのプレゼンテーション 事業	阿部 隆一	地域総務課 第3部会	<p>【目的】 曾我・平澤両人の出身大学で南区の紹介やアピールを行い、関西方面からの誘客に資する。</p> <p>【内容】 3カ年計画とし、 1年目 京都交流事業検討委員会の立ち上げ及び人選・調査研究 等 2年目 曾我・平澤両人の出身大学、その他商業施設等でのパネル展示、講演会及び観光物産展の開催 3年目 京都市と新潟市の交流を拡大する事業の検討等を実施し、関西方面から南区への誘客を図る。</p>	<p>【実施に向け検討する】</p> <p>提案事業については、将来的には京都市をはじめとする関西方面からの集客が見込まれ、旅行者や短期滞在者などによる交流・滞在人口が拡大し、地域経済の活性化につながることを期待されます。 新たに交流事業をはじめると当たっては、南区内における機運の醸成は元より、特に地元味方地区の皆さまによる曾我・平澤記念館や地域の個性・特徴の魅力発信活動など、今まで以上の盛り上がりが必要であると考えます。そのため、まずは味方地区において、コミュニティ協議会や曾我・平澤記念館運営協議会などの関係団体などで検討いただき、その気運が高まった時をとらえ、「区役所企画事業」の中で展開する方法もあるのではないかと考えます。 その第一歩として、年内を目途に、両人の出身大学に自治協議会委員の皆さまと直接出向き、事業実施の可能性について、意見交換をしてまいります。</p>

番号	区分 (企画・提案)	事業名	提案委員名	担当 (担当部会)	事業概要	対応 ex.【実施する】【他の事業で実施する】【実施しない】
5	企画	越後平野の魅力再発見事業	阿部 隆一	産業振興課 第3部会	<p>【目的】 小学生に南区の魅力を「気づき」から学ばせることで地域への愛着を深めてもらい、併せて農業の魅力をもPRする。</p> <p>【内容】 越後平野の仕組みを田んぼと川、用水路からの視点で紹介する立体図を用いたパンフレットを作成し、小学生とその保護者を招いた説明会を開催し、南区の魅力に気付いてもらうことで地域への愛着を深める。</p>	<p>【他の事業で実施済み】</p> <p>南区では全小・中学校を対象に「未来創造教室」を実施しており、この中で農業を通じて地域への理解を深め、愛着を持ってもらうための取り組みを進めており、臼井地区コミ協と土地改良区が連携して、小学生を対象とした冊子「白蓮湯の歴史」を作成するなど地域が主体となって取り組んでいる事例もあります。</p> <p>また、土地改良区では田んぼや農業用水路などのPR活動を行っていますが、委員のご提案を参考に、先人たちの英知が詰まった田んぼの仕組みをわかりやすく伝えるようなPRを働きかけていきたいと思っています。</p>
6	企画	昭和の奇祭復活でまちなか賑わい創出事業	大那 孝	産業振興課 第3部会	<p>【目的】 昭和の時代に行われていた奇祭を復活させ、個性的なまちの雰囲気をつくり、名産品の開発等で付加価値の発掘に繋げる。</p> <p>【内容】 昭和初期に白根地区で行われていた奇祭「しろねこ行進曲」を復活させて後世に語り継いでゆく。 この祭りと併せて現存する町屋が残る白根の商店街やねこに因んだ名産品、モチーフなどを開発して、商店街を活性化させる。</p>	<p>【実施しない】</p> <p>原則、地域住民主体で進めていくべきものと考えます。 財源として、まちづくり活動サポート事業は2回は使えないため、次年度に向け、「商店街活性化ステップアップ事業」補助(補助率1/2、上限50万円)の予算化を準備しています。 また、白根商店街等の活性化支援については白根高校との連携事業のなかで実施していきたいと思っています。</p>
7	企画	笹川邸で四季の花祭り	笹川 和代	地域総務課 第3部会	<p>【目的】 また来たいと思えるような魅力づくりと笹川邸を大切に保存するという意識啓発のため、笹川邸を四季折々の花により飾る。</p> <p>【内容】 笹川邸中庭及び園地に簡単な花壇を設置して、四季折々の花を植え替えて季節の花祭りを行う。 味方地区の自治会やいろいろな団体に呼び掛けて、花のコンテストを開催する。</p>	<p>【実施する】</p> <p>→区づくり事業「文化資源魅力UP事業」</p> <p>旧笹川家住宅に足を運んでもらうきっかけになるよう、また、入館者に楽しんでいただけるよう、旧笹川家住宅の雰囲気を活かした四季折々のイベントを計画しています。地域の皆さまに協力をいただきながら実施したいと考えています。</p>
8	企画	角兵衛獅子の魅力発信事業	鈴木 照子	産業振興課 地域総務課 第3部会	<p>【目的】 地域の文化遺産の魅力発信による地域活性化と担い手不足の解消を図る仕組みづくり</p> <p>【内容】 角兵衛獅子の歴史文化の整理、農環センターの展示整理、ホームページによる情報アーカイブ、周辺コンテンツの整備を行い、地域活性化を図る。 角兵衛獅子の担い手不足の解消方法を図るための仕組みづくりを検討する。</p>	<p>【区づくり事業で実施する】</p> <p>→「角兵衛獅子の魅力発信事業」(新規) 月湯農村環境改善センターにある郷土資料室の角兵衛獅子の関連資料の調査・整理を行い、郷土資料室の展示企画を制作したうえで展示替えを実施します。</p> <p>→「文化資源魅力UP事業」(継続) 「伝統芸能フェスタ」において披露の場を用意し、魅力の発信に努めます。 なお、ご提案の担い手不足の解消については、後継者育成に向け、角兵衛獅子保存会と協議を進めていきます。後継者年代である小学生に対するPRは、引き続き小学校に出向きPRしていきます。</p>
9	企画	地産地消事業(地域間交流の拡大)	鞠子 幸一	産業振興課 第3部会	<p>【目的】 南区の北部ベッドタウンと農村部の地域間交流により地産地消を図る。</p> <p>【内容】 南区の地場で採れた新鮮野菜などの区内での販売を通じて、地域間交流を図る。</p>	<p>【実施しない】</p> <p>農家の現状は、作物等を作ることで労力の大半を費やしており、マルシェ等での直接販売は難しいと関係者から聞いています。 一方、東笠巻新田にあるアグリパークは、農村都市交流施設として整備されており、直売所やレストランのほか、様々なプログラムやイベントをご用意しています。他都市にはない、新潟市が誇る交流施設ですので是非積極的にご利用ください。 また、観光農園も豊富にありますのでこちらも併せてお楽しみいただくことをお勧めいたします。 なお、コミュニティ協議会が主体となって取組みを行う場合は、市有地の使用許可など主に手続き関係について協力させていただきます。</p>